

区内在住の2人がアジアパラで大活躍

9日、インドネシア2018アジアパラ競技大会に出場した高田朋枝さんと井草貴文さんが区役所を訪れ、大会の結果報告をしました。また、区からは2人の大会での活躍を受け、「杉並区スポーツ栄誉章」を授与しました。

アジアパラ競技大会は、アジアパラリンピック委員会が主催するアジア地域の障害者の総合競技大会です。2010年（平成22年）の中国広州大会からスタートし、4年毎に開催されています。2018大会は、10月6日から13日の日程で、インドネシアのジャカルタで開催されました。

その大会には、区内在住の2人の選手が出場しました。高田朋枝（昭和59年6月、旭川市生まれ）さんは、幼少期に視力が急激に低下し、視覚障害があることが判明しました。筑波大学附属盲学校在学中にゴールボールと出会い、平成18年から日本代表の合宿に参加しています。今回の大会では、予選から勝利を重ね、決勝戦もアジアの強豪中国を5-3で破り、見事に金メダルを獲得しました。

井草貴文（平成2年7月、杉並区生まれ）さんは、陸上男子T37/38クラス（脳性麻痺・立位・片麻痺で歩行または走行が可能な立位競技者）1500mで4位入賞を果たしました。二人の最大の目標は、東京2020パラリンピック競技大会でのメダル獲得です。

9日午後4時、区役所ロビーで多くの来庁者や区職員に向け、2020へ向けた決意を語ると会場からは大きな拍手に包まれました。その後、区長室では田中区長が大会の活躍を受け、2人にスポーツ栄誉章を授与しました。併せて、「東京2020パラリンピック競技大会では、区を挙げて応援しますので、ぜひ頑張ってください」と熱いメッセージを贈りました。



【問い合わせ先】

区民生活部スポーツ振興課：03-3312-2111 内線 1671